

9月議会一般質問

並行在来線の運行について

① JRの責任で

在来線の運行を

砂田市議 こんどの政権交代を受けて、旧与党合意を見直せ

と、働きかけられないか。鉄道輸送は人の輸送も貨物輸送も、地球温暖化対策としてきわめて重要であり、在来線をひきつづきJRの責任で運行させること。

② 在来線の県境

分離をさせないこと

砂田市議 北陸本線の県境分離は絶対に避けたい。県境分離で運行会社が違つと、それぞれの会社が初乗り運賃を取るようになるため、運賃の値上げが生じる。

街灯のLED化と電気料引き下げについて

「試験的に設置したい」 産業建設部長

砂田市議は「地球温暖化対策の一環として、街灯のLED化(発光ダイオードによる照明。電力消費量が少なく、寿命が長い)と、町内会負担の街灯電気料引き下げ交渉を」と質問しました。

産業建設部長は「LED道路照明灯の性能・価格・管理性を検討し、今後、必要箇所に設置したい」、「防犯灯についても、試験的に設置したい」、「北陸電力は、LED照明の消費電力等の使用を確認して、料金を引き下げると」答えました。

市役所1階の照明をLED化する。これも9月補正予算に盛り込まれました。

再び注目される 公共事業見直し

民主党政権が変わつて、公共事業の見直しが進められています。そこで2004年9月から12月にかけて行われた能越自動車道路料金の割引・無料化実験の結果をお知らせし、国道8号 芹川東交差点から高岡IC交差点間の道路拡幅計画の是非について考えてみます。

実験の目的

無料化で8号線の渋滞緩和なるか

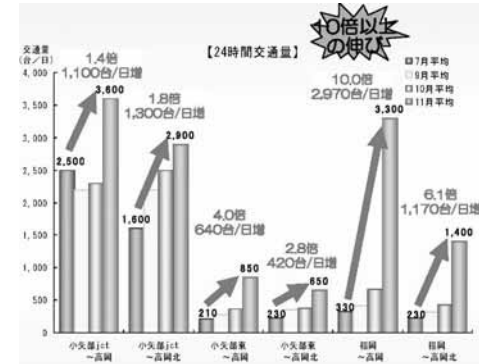
この社会実験は、国道8号線から能越自動車道へと交通を転換させることにより、福岡地域を通過する国道8号線の交通量を軽減させ、これによって一般道の渋滞緩和などの可能性を検証する目的で行われました。実施したのは国土交通省、富山県、県道路公社です。

実験の結果 1 交通量

能越道 2.9倍

国道8号 0.8倍

能越道は実験前に比べ2.4時間交通量が約2.9倍に増え、並行する国道8号では交通量が0.8倍に減少しました。特に能越道の福岡ICと高岡IC間の交通量は1.0倍以上という高い伸びを示しました。



実験の結果 2 渋滞緩和

国道8号経由 約3分短縮

能越道経由 約5分短縮

国道8号線芹川東交差点から高岡IC交差点間については朝夕の通勤帰宅時間帯では国道8号線経由で約3分短縮し、能越道経由では約5分短縮されました。能越自動車道の無料化で、国道8号線の渋滞が緩和され、8号バイパスの機能を十分果たせることがわかりました。

2年前にも議論

能越道の国道8号バイパス化

8号線拡幅より投資効果大

2007年6月議会で砂田市議は「能越自動車道を8号バイパス」と一般質問。桜井市長は「無料化に向けて強く要望したい」としながら旧福岡町の国道8号区間の拡幅問題は、防災・危機管理の必要性と沿線地域のまちづくりという観点から検討されるべきで、今後調査研究したい」と答えました。

砂田市議は再質問で、「防災

やまちづくりと8号線拡幅は別の問題。8号線をひろげるのは、通過交通量が多くさびききれないとか、交通事故を防ぐためであり、拡幅より少ない経費でそれが実現できるのであれば、無理にひろげる必要はないではないかと述べました。桜井市長は「指摘の部分は理解できるので、機会があれば議論を投げかけたい」と答えました。

計画変更

石動駅南区画整理事業

上下水道など市直接発注

区画整理組合の負担を軽減

この事業は、石動駅南土地区画整理組合が、2008年から2016年の間に、総事業費39億2千万円で、石動駅南地区14ヘクタールの区画整理をする計画でした。主な変更点は、組合が施行する予定だった上下水道、防火水槽などを、小矢部市が直接発注する事業として肩代わりし、組合の事業費負担を1億2200万円軽くするものです。

その結果、地権者が事業費捻出のために無償で提供する土地は、住みよいまちづくりとて、新幹線用地、駅南広場、道路拡幅用地を、無償で提供させられるだけに終わりそうです。